

やまとの環境

概要版

—環境基本計画年次報告書—
令和5年度版(令和4年度実績報告)



大 和 市

やまとの環境(大和市環境基本計画年次報告書)について

やまとの望ましい環境像、「自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと」の実現のために、大和市では平成10年度に環境基本計画を策定しました。平成29年度には、目標設定水準や施策の見直し、地球温暖化対策実行計画との総合的な管理の推進などを踏まえ、2回目の改定をしました。

本計画では、目標の達成度や、施策の進行状況を定期的に把握・評価し、必要に応じて見直しや修正を行っていきます。このことから、やまとの環境の現況と、環境基本計画に基づく施策の進行状況等を明らかにするため、ここに年次報告書として取りまとめ、公表することにより、情報の公開と共有を図るものです。

自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと

望ましい
環境像の
実現



《指標項目についての進捗状況の一覧》

●目標値は令和9年度のものです。

各環境要素の評価一覧

<※着色部は目標未達>

環境要素	指標項目	目標値	R3 年度数値	R4 年度数値
①空気	二酸化窒素濃度	目標値 0.04ppm 以下	0.027ppm	0.027ppm
②水	BOD (生物化学的酸素要求量)	目標値 境川 3.0mg/ℓ以下 引地川 2.0mg/ℓ以下	境川 1.4mg/ℓ 引地川 1.1mg/ℓ	境川 1.6mg/ℓ 引地川 1.3mg/ℓ
③音	市内全調査地点で環境基準をクリア	目標値 100%	67%	83%
④美化	「散乱ごみの少ないきれいなまち」 だと思ふ市民割合	目標値 50%	市民 53% 事業者 45%	市民 51% 事業者 51%
⑤緑	保全緑地契約面積等	目標値 26.2ha	26.5ha	26.5ha
⑥生物	「身近に多くの種類の動植物とのふれあい のあるまち」だと思ふ市民割合	目標値 50%	市民 40% 事業者 38%	市民 31% 事業者 41%
	市内でミンミンゼミの生息が確認されていること	目標値 生息を確認	生息を確認	生息を確認
⑦景観	「魅力ある街並みを持っているまち」 だと思ふ市民割合	目標値 40%	市民 31% 事業者 26%	市民 26% 事業者 26%
⑧安全	各環境中の基準濃度を超過した 有害化学物質数	目標値 0種類	3種類	3種類
⑨産業	環境に配慮した事業活動を行っている 事業者割合	目標値 50%	58%	54%
⑩基地	航空機騒音に係る環境基準の達成率	目標値 100%	60%	60%
	航空機騒音を削減させるよう取り組む	目標値 取組んでいる	取組んでいる	取組んでいる
⑪都市空間	一人当たりの都市公園等面積	目標値 6.8 m ² 以上	6.88 m ²	6.85 m ²
⑫地球環境	温室効果ガス排出量 削減率(2013 年度比)	目標値 40.0%削減	26.2%削減	-
⑬水循環	雨水貯留槽購入費補助申請累積件数	目標値 650 件(基) (年間 30 件程度必要)	470 件 (8 件)	477 件 (7 件)
⑭資源	資源化率	目標値 32.2%	29.2%	29.0%
	市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量	目標値 438g未満	421g	413g
⑮エネルギー	住宅用太陽光発電システム補助累積件数	目標値 2500 件 (年間 100 件程度必要)	1,862 件 (73 件)	1,952 件 (90 件)
⑯環境保全 活動	やまとみどりの学校プログラムへの 参加校	目標値 市内全校(28 校)	21 校	21 校
	「環境に配慮したり、環境保全活動に取り 組む人が多い」と感じる市民割合	目標値 50%	市民 38% 事業者 34%	市民 35% 事業者 39%

令和4年度時点で目標未達項目は10項目、令和3年数値に対して改善している。

⑫地球環境の温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

⑬水循環、⑮エネルギーは累計値となっており、()内は単年当たりの件数

生活環境

1.「空気」

目 標： 深呼吸したくなるまち

数値目標： 二酸化窒素濃度 0.04ppm 以下

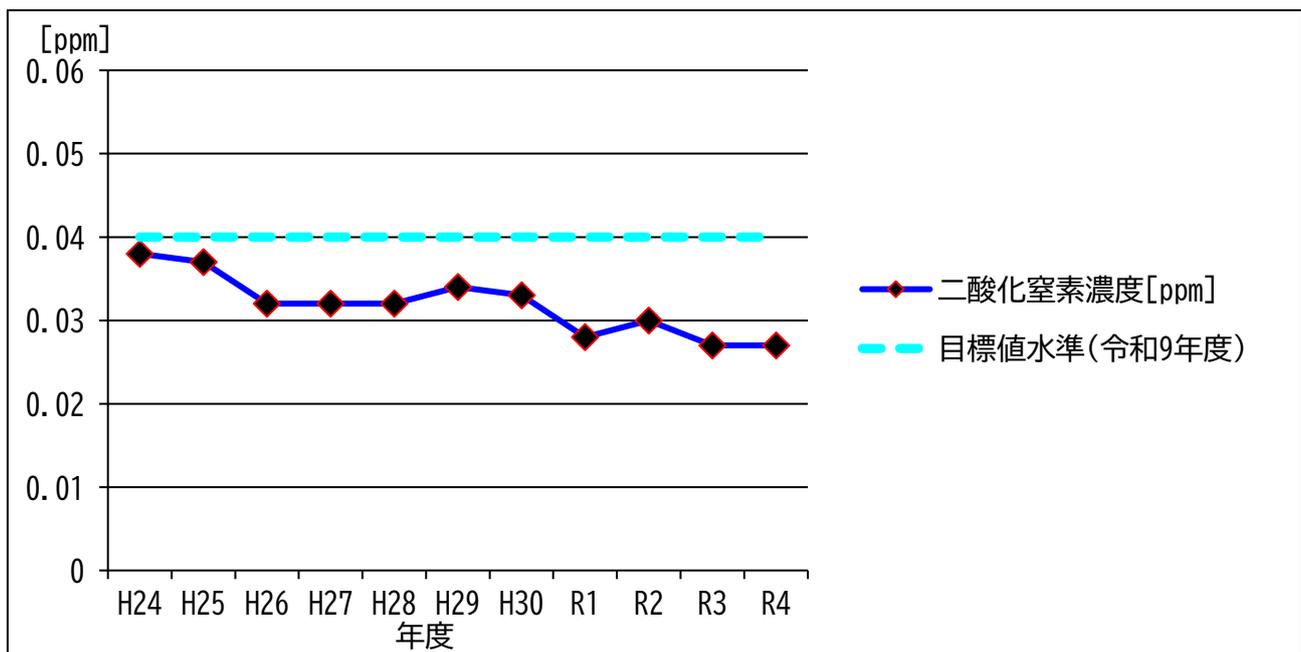
【指標の内容】	「人の健康を保護するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、環境基準同様に、日平均値を一年分並べて低いほうから98%に相当する値」を表示します。
---------	--

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
二酸化窒素濃度[ppm]	0.033	0.028	0.030	0.027	0.027	0.04

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 大和市の交通量に大きな変化はなく、低公害車の普及状況にも大きな変化がないためだと考えられる

【目標の確認のための取組】 常時監視測定局の大和市役所における二酸化窒素濃度年間98%値(環境基準)の経年変化を測定



《令和4年度の取組事例》

- ・ コミュニティバス「のろっと」及び「やまとん GO」、西鶴間・上草柳地域の協働事業「のりあい」の運行を継続することにより、交通利便性の向上が図られた。(その1街づくり総務課)
- ・ 駐輪場シェアサービス「みんちゅう」登録台数は139台あった。(その4道路安全対策課)
- ・ 11月に上草柳トラックステーションにてアイドリングストップのチラシとカイロを休憩所窓口を設置し、啓発活動を実施した。また、開発協議会で31件の駐車場管理者に対し、アイドリングストップの周知について指導した。(その8生活環境保全課)
- ・ 簡易測定法による窒素酸化物濃度の測定を年2回市内32カ所で実施した。(その13生活環境保全課)

2.「水」

目 標：きれいな川のあるまち

数値目標：BOD(生物化学的酸素要求量)

境川 3.0mg/ℓ 以下・引地川 2.0mg/ℓ 以下

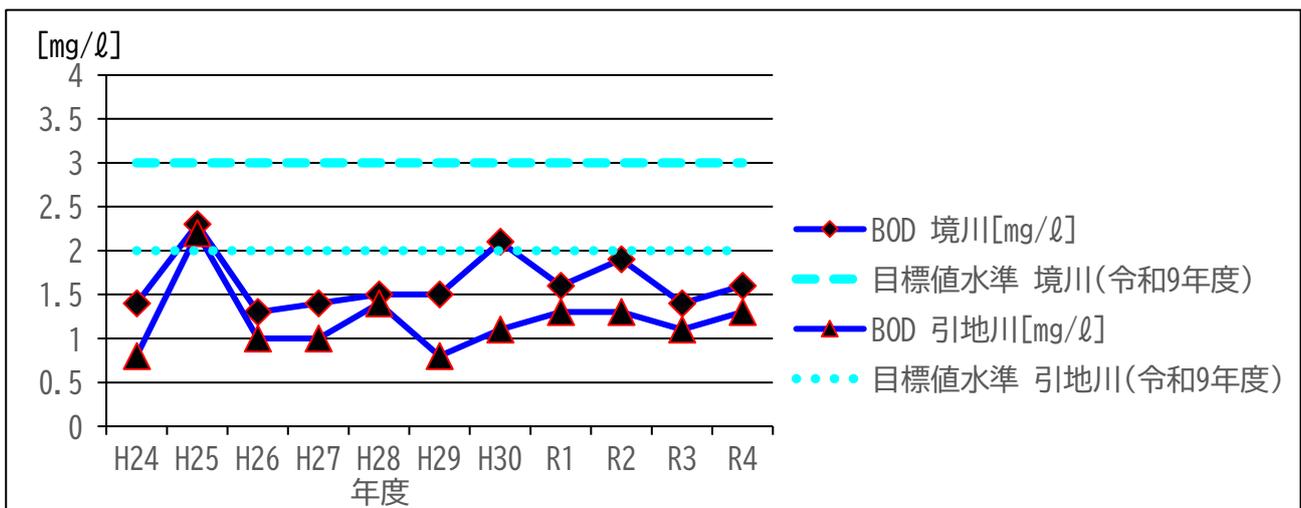
【指標の内容】	「生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、市が独自に行う水質調査の平均値による値」を表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
境川[mg/ℓ]	2.1	1.6	1.9	1.4	1.6	3.0
引地川[mg/ℓ]	1.1	1.3	1.3	1.1	1.3	2.0

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 高い下水道普及率や事業者への指導等により、環境基準を達成する水質を維持できていると考えられる

【目標の確認のための取組】 河川の水質測定



《令和4年度の取組事例》

- ・ 水質基準違反のあった事業所がのべ2件あったため、指導を行った。(その17生活環境保全課)
- ・ 適正な計画・管理・運営をすることにより、公共下水道の質的向上に努めた。(その18下水道・河川施設課)
- ・ 特定事業場への立入検査を141件実施するとともに、事業場排水に関する監視及び指導を行った。
(その19下水道経営課)
- ・ 下水道出前授業(19校)及び、教材等を配布し学校の教員による授業実施(1校)により生活排水や下水道の役割についての意識啓発を行った。また、下水道ポスター展を開催し、13校から 1,225 点の作品の応募があった。
(その21下水道経営課)
- ・ 側溝や集水桝、河川の清掃を実施した。(側溝 2,668m、河川 2,231m)
(その27道路管理課、下水道・河川施設課)
- ・ 河川水質調査(境川 3 地点、引地川 2 地点)を実施した。(その28生活環境保全課)

3.「音」

目 標： 静けさを感じるまち

数値目標： 市内全調査地点で環境基準をクリア

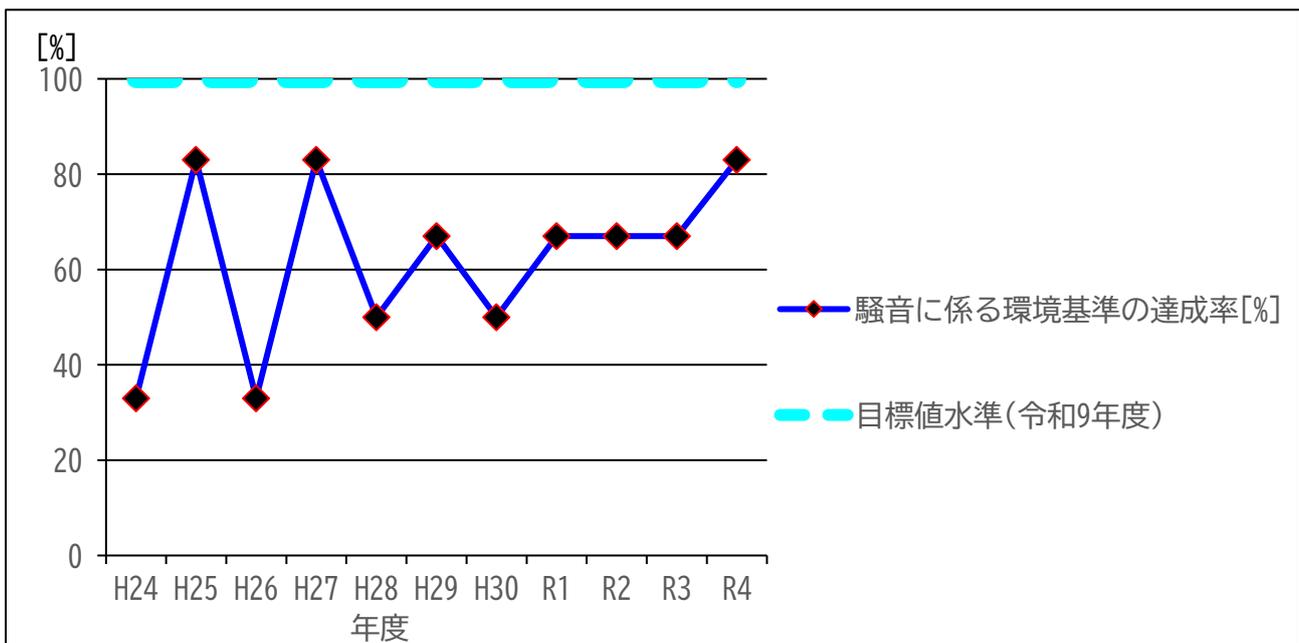
【指標の内容】	市内全道路騒音調査地点における、騒音に係る環境基準の達成率を表示します。
---------	--------------------------------------

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
騒音に係る環境基準の達成率 [%]	50	67	67	67	83	100

【本年度の評価】 目標は未達成だが、改善している

【評価の理由】 自動車利用者への意識啓発や、騒音・振動の苦情があった際に指導を行ってきたことにより、状況が改善した可能性が考えられる

【目標の確認のための取組】 幹線交通を担う道路における騒音測定



《令和4年度の取組事例》

- ・ 神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請等において、事業者に対し、騒音・振動防止対策を指導した。また、工場・事業所から発生した騒音・振動苦情3件について事業者に指導を行った。
(その30生活環境保全課)
- ・ 屋外作業に伴う騒音・振動苦情26件に対して事業者に指導を行った。(その31生活環境保全課)
- ・ 建設作業に伴う騒音・振動苦情16件について実態を調査し、事業者を指導した。(その33生活環境保全課)
- ・ 苦情のあった音響機器(カラオケ)を使用した営業店4件について事業者を指導した。
(その35生活環境保全課)
- ・ 広報やホームページで生活騒音防止に関する意識啓発活動を行った。(その36生活環境保全課)
- ・ 主要な幹線道路沿い6地点で道路交通騒音の測定を実施した。(その39生活環境保全課)

生活環境

4.「美化」

目 標： 散乱ごみのないきれいなまち

数値目標： 「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合 50%

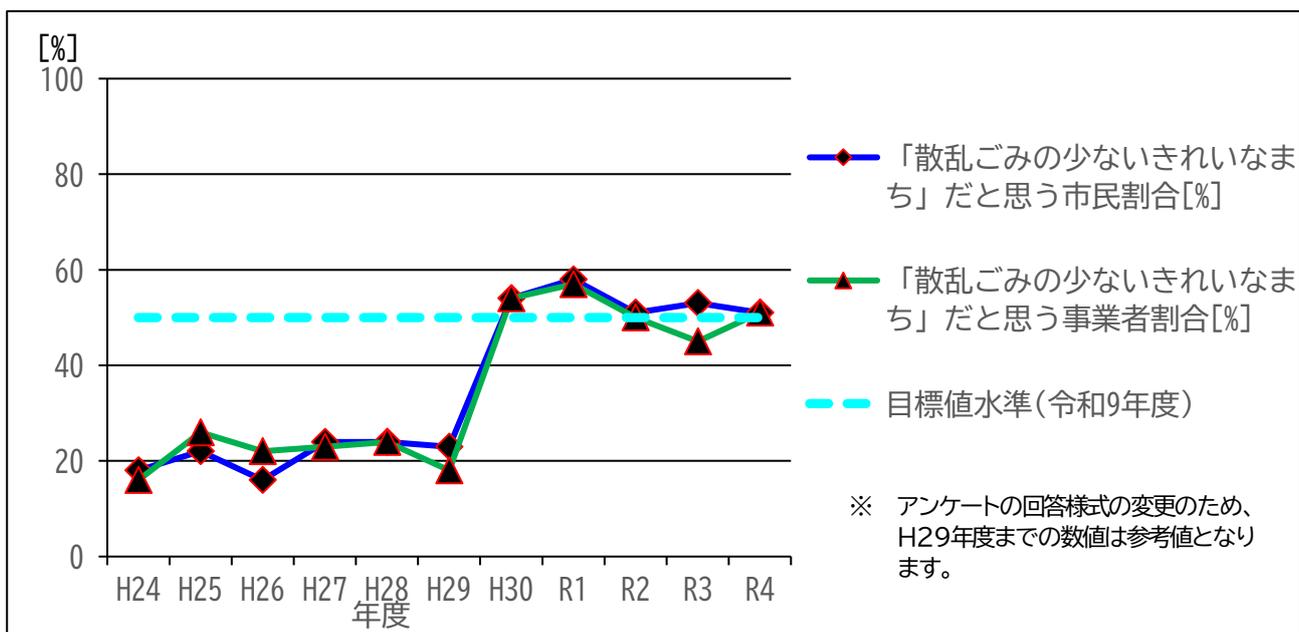
【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	--

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	54	58	51	53	51	50
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ事業所の割合[%]	54	57	50	45	51	50

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 不法投棄の回収量が、減少傾向にあることから散乱ごみの量が少なくなっている可能性が考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和4年度の取組事例》

- ・ 不法投棄防止の啓発看板等の作成やパトロールを行うとともに、ボランティア袋を市民に配布し散乱ごみや不法投棄防止のための意識啓発を行った。(その43、54生活環境保全課)
- ・ 定期的なパトロールを行い、ルール違反ごみや不法投棄物を監視し、排出者を特定できる時は、個別に指導を行った。(その44廃棄物対策課)
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、清掃の日及び環境ポスターコンクールの表彰式を中止したが、例月まち並み清掃、美化推進月間クリーンキャンペーンは実施した。(その46、48、49生活環境保全課)
- ・ 職員及び大和市違反屋外広告物除却協力員にて、違反屋外広告物除却活動を39回を行い、274件の除却を行った。(その50街づくり推進課)

自然環境

5.「緑」

目 標： 緑豊かなまち

数値目標： 保全緑地契約面積等 26.2ha

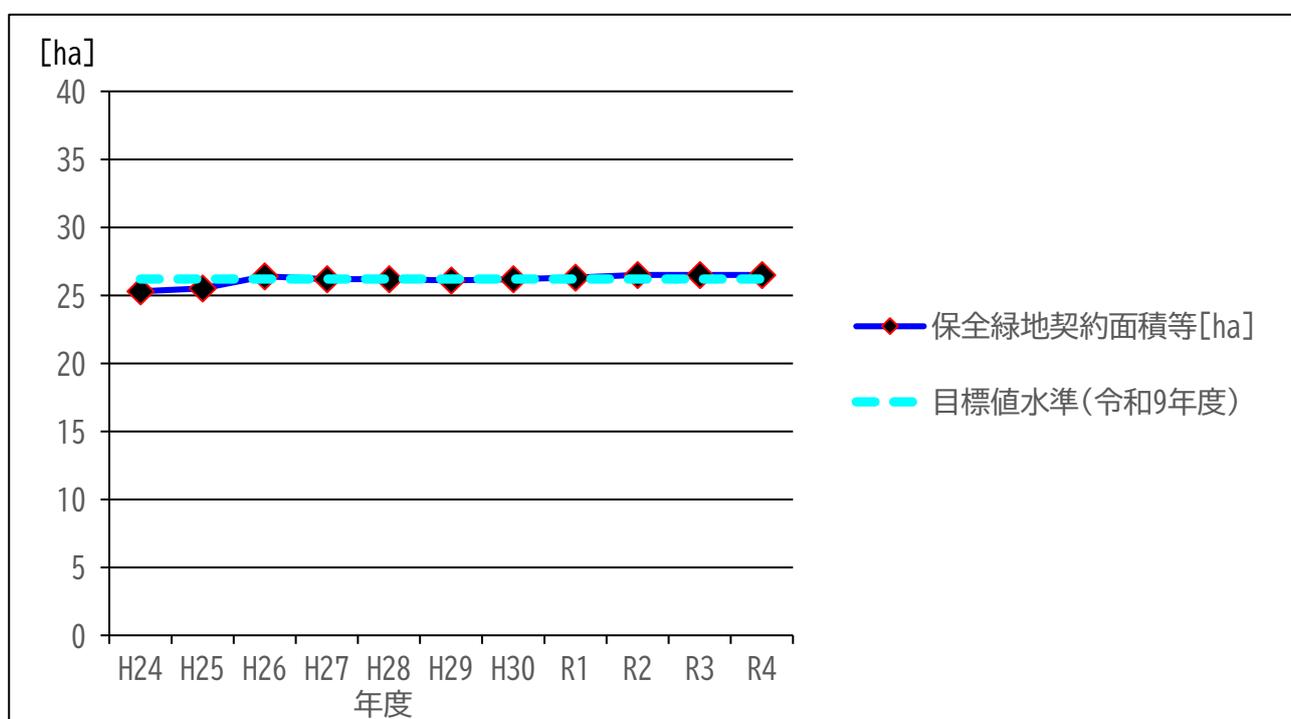
【指標の内容】 今ある緑を守り育てるため、「保全緑地契約面積等」の値を表示します。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
保全緑地契約面積等[ha]	26.2	26.3	26.5	26.5	26.5	26.2

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 緑の拠点となる保全緑地の契約を継続し、保全できているため

【目標の確認のための取組】 保全緑地契約面積等を把握



《令和4年度の取組事例》

- ・ 保全緑地所有者と賃貸借契約を継続し、山林の保全に努めた。(その56みどり公園課)
- ・ 意欲的な農業者に対し、積極的に農地の貸し借りを推進し、農地の集約化等を図ることで良好な農業景観を保全した。(その58農政課)
- ・ 公園愛護会等の緑化活動に対し、支援を継続して行った。また、新たな愛護会が設置できるよう誘導した。(公園愛護会登録団体数:119団体)(その63みどり公園課)
- ・ 住宅地における接道部緑化(生垣等設置)に対して、設置費用の助成を1件行った。(その64みどり公園課)
- ・ 市内保全緑地の緑化ボランティア「トコロジスト」に対する活動支援として、養成講座や活動内容発表会を開催し、養成講座に9人、活動内容発表会に25人が参加した。(その71みどり公園課)

自然環境

6.「生物」

目 標：多様な生物とのふれあいのあるまち

数値目標：「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合 50%

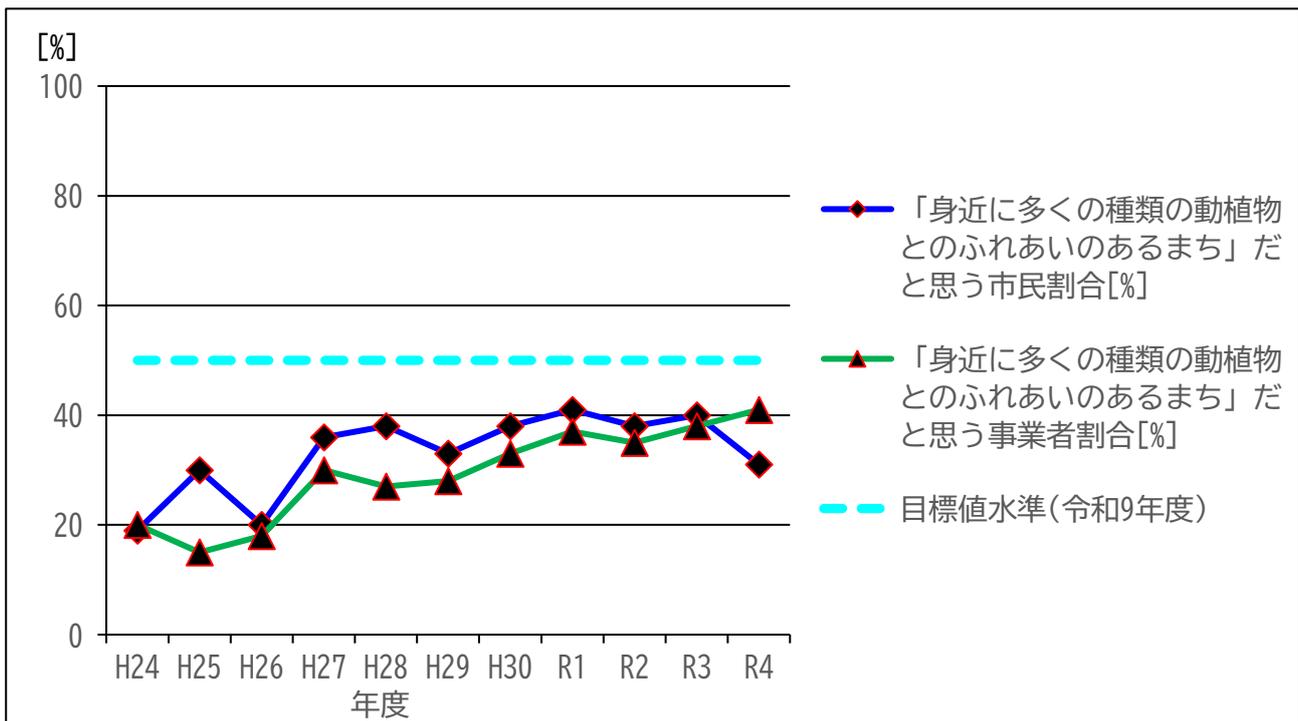
【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	38	41	38	40	31	50
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	33	37	35	38	41	50

【本年度の評価】 目標は未達成で、事業者割合は増加したが、市民割合は下がった

【評価の理由】 公園等で樹木が伐採されることや、空き地に家屋・マンションが続々と建築されることに影響されたことが考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



自然環境

6.「生物」

目 標：多様な生物とのふれあいのあるまち

数値目標：市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること

【指標の内容】	自然度を表すことのできる生物としてミンミンゼミの生息がぬけがら採取から確認できたかどうかを表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること (ミンミンゼミが全体に占める割合%)	○ (13.2)	○ (13.5)	○	○	○ (13.5)	生息を 確認

※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査は中止し、ミンミンゼミの生息確認は市職員が行いました。

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 令和4年度は3年ぶりにセミのぬけがら調査を実施し、多くのミンミンゼミのぬけがらが確認されたため

【目標の確認のための取組】 やまと市環境調査(セミのぬけがら調査)による調査

《令和4年度の取組事例》

- ・環境調査を行い、市内に生息する野生動物の状況把握に努めた。
セミのぬけがら調査は7～9月に行い、41名と1保育園が調査に参加した。
ツバメ情報調査は「やまと みどりの学校プログラム」の一環として実施した。
調査の結果は市のホームページで公表した。(その74、78環境総務課)
- ・ホームページや自然ハンドブック等を利用し、継続的に野生動植物保護に関する普及啓発を行った。
(その76みどり公園課)
- ・大規模緑地を賃貸借契約や土地の買取り等により確保し、保全管理を適切に行ったことで、野生動植物の生息・生育場所としての緑を保全した。(その79みどり公園課)

都市環境

7.「景観」

目 標：魅力ある街並み

数値目標：「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民割合 40%

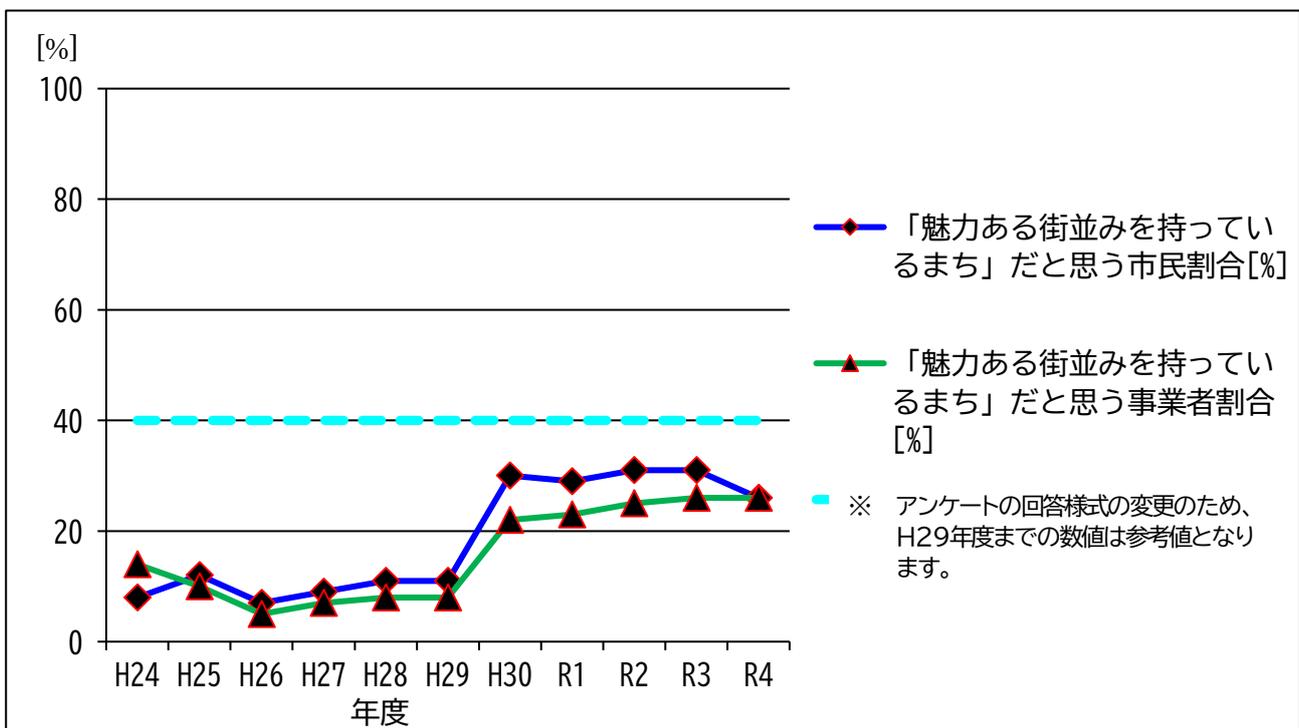
【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
大和市の「景観」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	30	29	31	31	26	40
大和市の「景観」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	22	23	25	26	26	40

【本年度の評価】 目標は未達成で、事業者割合は昨年度と同等だが、市民割合は下がった

【評価の理由】 景観法の通知に際して、大和市景観計画に定められた景観形成方針に適合するように調整するという対応をしているものの、状況を大きく改善できるような対応は出来ていないことが考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和4年度の取組事例》

- ・ 街づくり学校の開催及び街づくり賞の事例募集を実施した。(その84街づくり推進課)
- ・ 景観法の通知に際して、大和市景観計画に定められた景観形成方針に適合するように調整した。(その85、86街づくり推進課)
- ・ 市内の北部・中部・南部の遊歩道4箇所ベンチの整備を行った。(その89街づくり総務課)

8.「安全」

目 標： 安心して生活できるまち

数値目標： 環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数 ゼロ

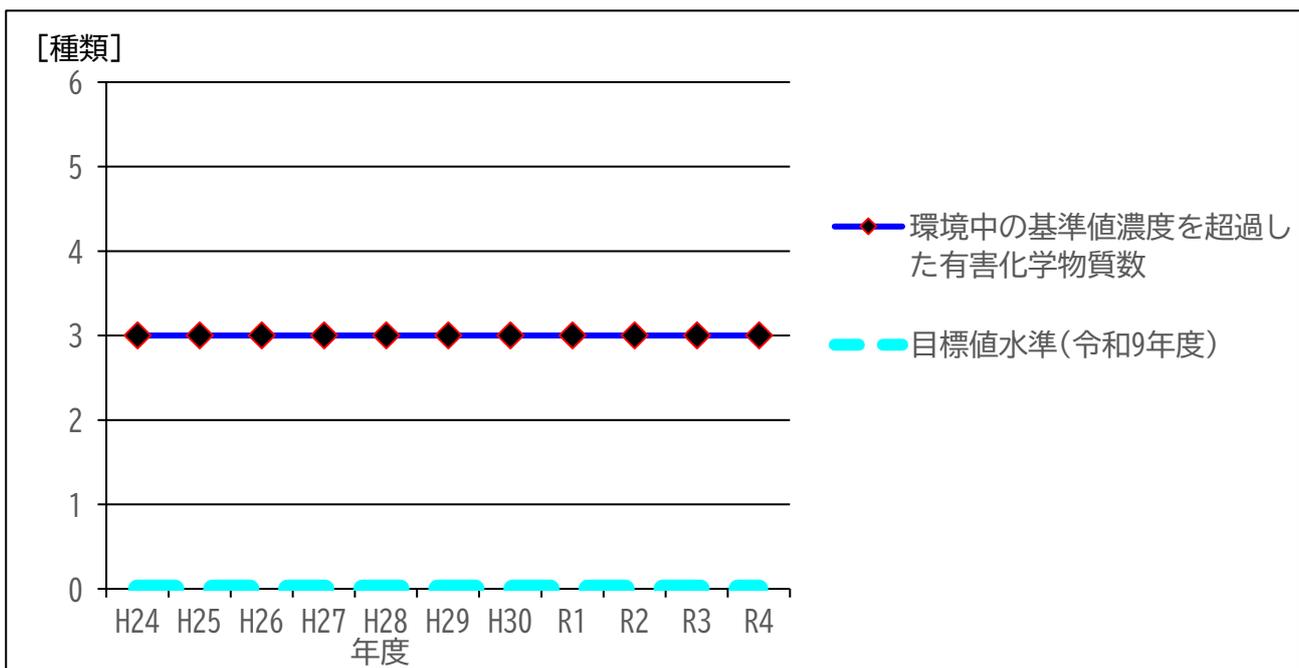
【指標の内容】	人の健康を守るために望ましい環境基準等を定められた有害物質を対象に市の 大気、水質、地下水についての調査で環境基準等を超過した物質の数を表示しま す。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数[種類]	3	3	3	3	3	0

【本年度の評価】 目標は未達成で、昨年度と同等だった

【評価の理由】 事業所について立入調査を実施し、化学物質に対する情報提供や、使用者に対し指導を実施したが、状況を改善するまでには至らなかったことが考えられる

【目標の確認のための取組】 各環境中の基準濃度と超過した有害化学物質数の測定



《令和4年度の取組事例》

- ・ 1.0haの雨水整備を行った。(その92下水道・河川施設課)
- ・ 耐震化の必要性の周知を行うとともに、木造建築物の耐震診断、耐震改修の補助により、住宅の耐震化を進めた。(その93建築指導課)
- ・ 防災マップを市民に提供したほか、防災講話、防災セミナー、防災協力員研修の実施や月一学園祭の出展等により、防災に関する意識啓発を行った。(その94危機管理課)
- ・ 台風や集中豪雨時に、やまとPSメール、やまとSOS支援アプリで情報を提供した。(その97危機管理課)
- ・ 苦情のあった焼却炉の設置事業所2件に立ち入り調査を行った。(その99生活環境保全課)

9.「産業」

目 標：農・工・商の調和するまち

数値目標：環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合 50%

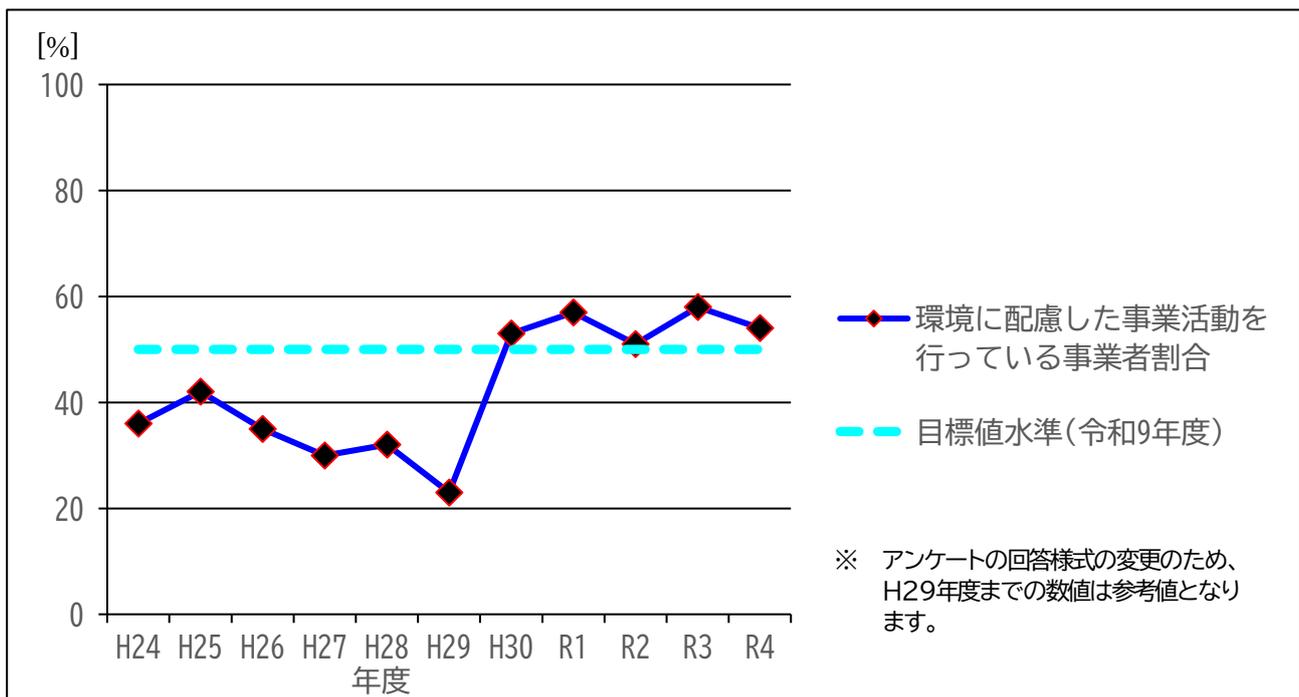
【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「環境に配慮した事業活動を行っている」と回答した事業者の割合を表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合[%]	53	57	51	58	54	50

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 アンケートの回答様式を変更した平成30年度から年度ごとの多少の増減はあるものの、横ばい傾向にあると言える
環境マネジメントシステム導入事業所数(指標66)も横ばい傾向にあり、事業者に対する啓発活動等が十分でない可能性が考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和4年度の取組事例》

- ・ 土づくり等を通じて化学肥料や農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を推進した。
(その110農政課)
- ・ 農業経営改善を進める認定農業者について、3人認定した。(その111農政課)
- ・ グリーン購入などのパンフレット及び啓発用パンフレットの配架等により、情報提供を行った。
(その117産業活性課)

10.「基地」

目 標 : 航空機騒音のないまち

数値目標 : 航空機騒音に係る環境基準の達成率 100%

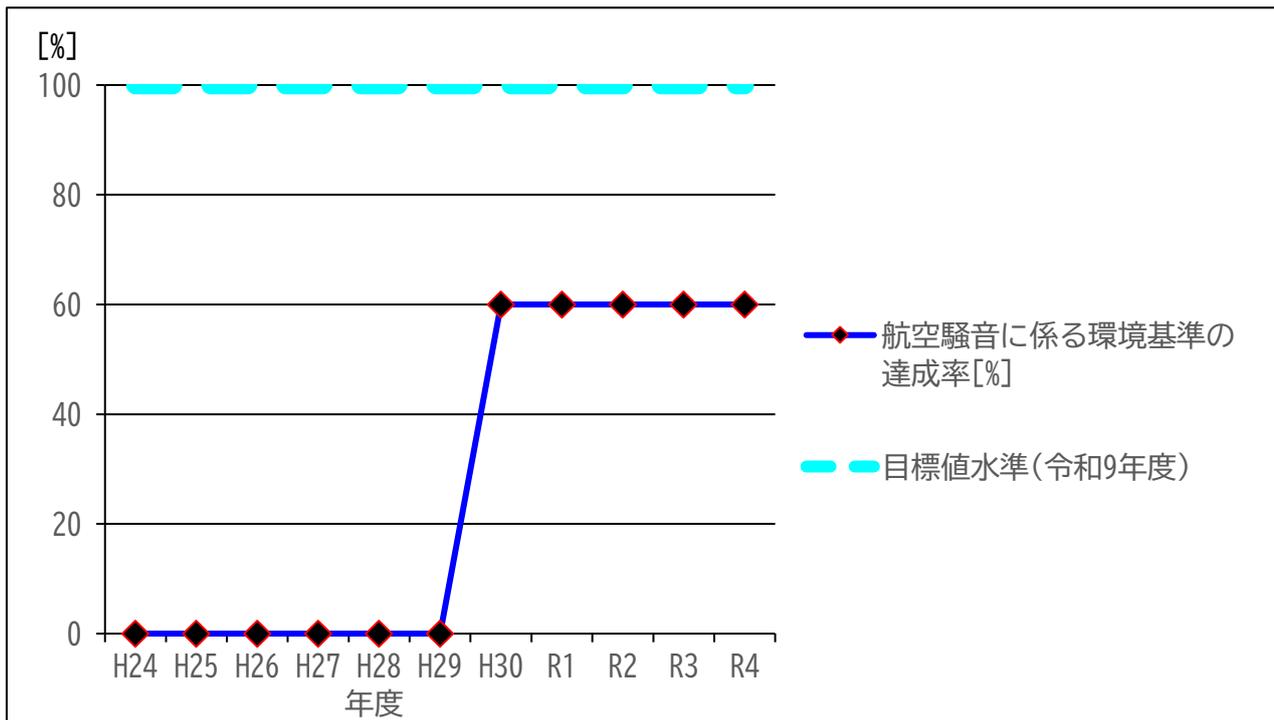
【指標の内容】 市内全域での「航空機騒音に係る環境基準」の達成率を表示します。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
航空機騒音に係る環境基準の達成率[%]	60	60	60	60	60	100

【本年度の評価】 目標は未達成で、昨年度と同等だった

【評価の理由】 平成30年3月に厚木基地から岩国基地への空母艦載機の移駐が完了するなど、航空機騒音防止のための取組みが行われている一方、大和市が「航空機騒音のないまち」だと思いますかという質問に対し、市民・事業者ともに「あまり思わない」「全く思わない」が8割以上となっているため

【目標の確認のための取組】 航空機騒音の測定



10.「基地」

目 標 : 航空機騒音のないまち

数値目標 : 航空機騒音を遁減させるよう取り組む

【指標の内容】	航空機騒音を遁減させるよう取り組んだかどうかを表示します。
---------	-------------------------------

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
航空機騒音を遁減させるよう取り組む	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 例年同様に航空機騒音を遁減させるよう取り組んでいる

【目標の確認のための取組】 航空機騒音の軽減に向けたはたらきかけ

《令和4年度の取組事例》

- ・ 大和市、大和市基地対策協議会、厚木基地騒音対策協議会、神奈川県基地関係県市連絡協議会による要請活動を行った。(その118基地対策課)
- ・ 県と市で設置している騒音計による騒音測定を継続実施した。(その119基地対策課)
- ・ 基地周辺(2か所)で地下水調査を実施したところ、環境基準を満たしていた。(その125生活環境保全課)
- ・ 基地周辺(3か所)で大気中の窒素酸化物の簡易測定を実施し、状況の把握をした。(その126生活環境保全課)

都市環境

11.「都市空間」

目 標： 都市空間のゆとりのあるまち

数値目標： 一人当たりの都市公園等面積 6.8 m²以上

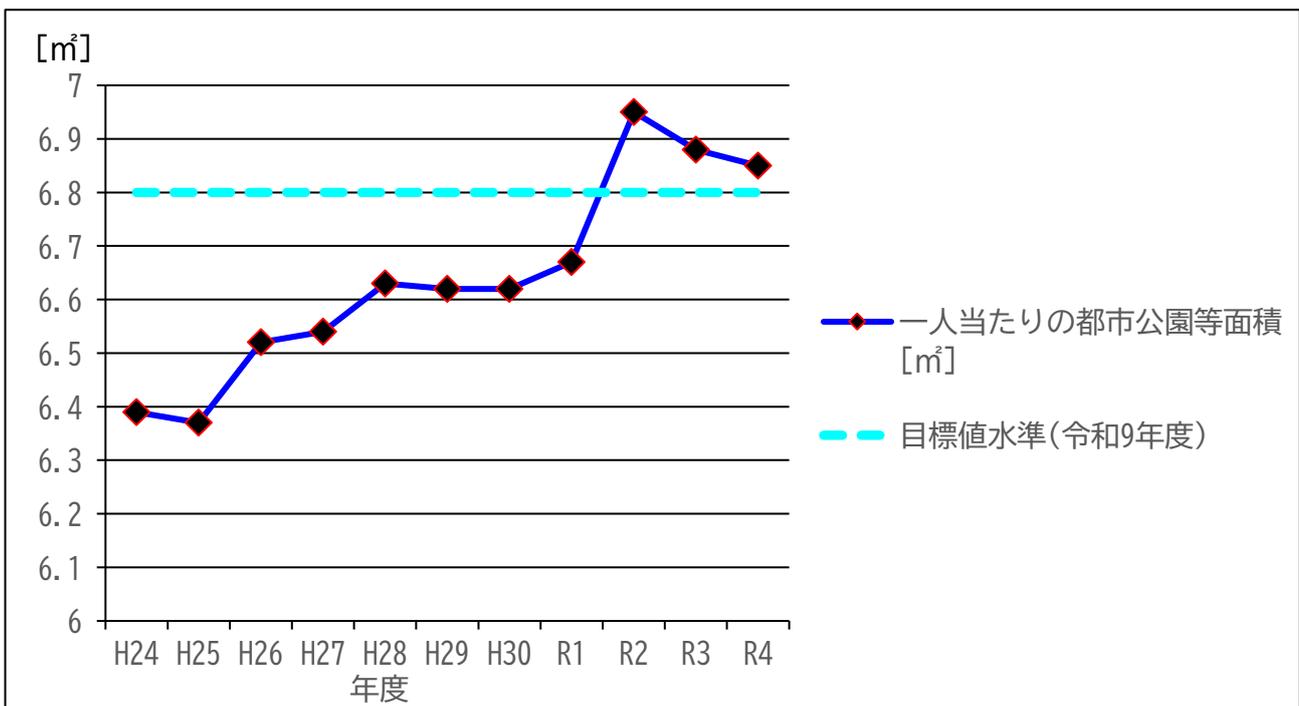
【指標の内容】	一人当たりの都市公園面積を現状程度に維持するために一人当たりの都市公園面積を表示します。
---------	--

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
一人当たりの都市公園等面積[m ²]	6.62	6.67	6.95	6.88	6.85	6.8

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 人口増加の影響で一人当たりの公園等面積は減少しているが、公園の整備を進め、基幹公園の面積は増加しているため

【目標の確認のための取組】 公園等の整備



《令和4年度の取組事例》

- ・ 交通安全対策を70箇所実施した。(その130道路安全対策課)
- ・ 歩道セーフティーアップ工事で246m を整備した。(その132道路安全対策課)
- ・ 令和2年度に着手したやまと公園の大規模改修工事が完了した。緑野青空子ども広場跡地を公園として整備し、星の子ひろばを拡張した。(その134, 135みどり公園課)
- ・ 地域住民の良好な生活環境を確保するため、開発等の事業に対する適切な指導を行った。
- ・ (その142街づくり計画課)
- ・ 大規模土地利用の転換に関して、地域の環境を阻害しないよう、土地利用誘導を推進した。(届出件数:3 件)
- ・ (その143街づくり計画課)

12.「地球環境」

目標:地球市民としての自覚を持って行動するまち

全体の数値目標:温室効果ガス排出量 40.0%削減(2013年度比)

【指標の内容】	地球温暖化を抑制するため「温室効果ガス排出量」を指標とし、2013年度を基準とした削減率を表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
温室効果ガス排出量削減[%]	19.1	22.9	23.2	26.2	-	40.0

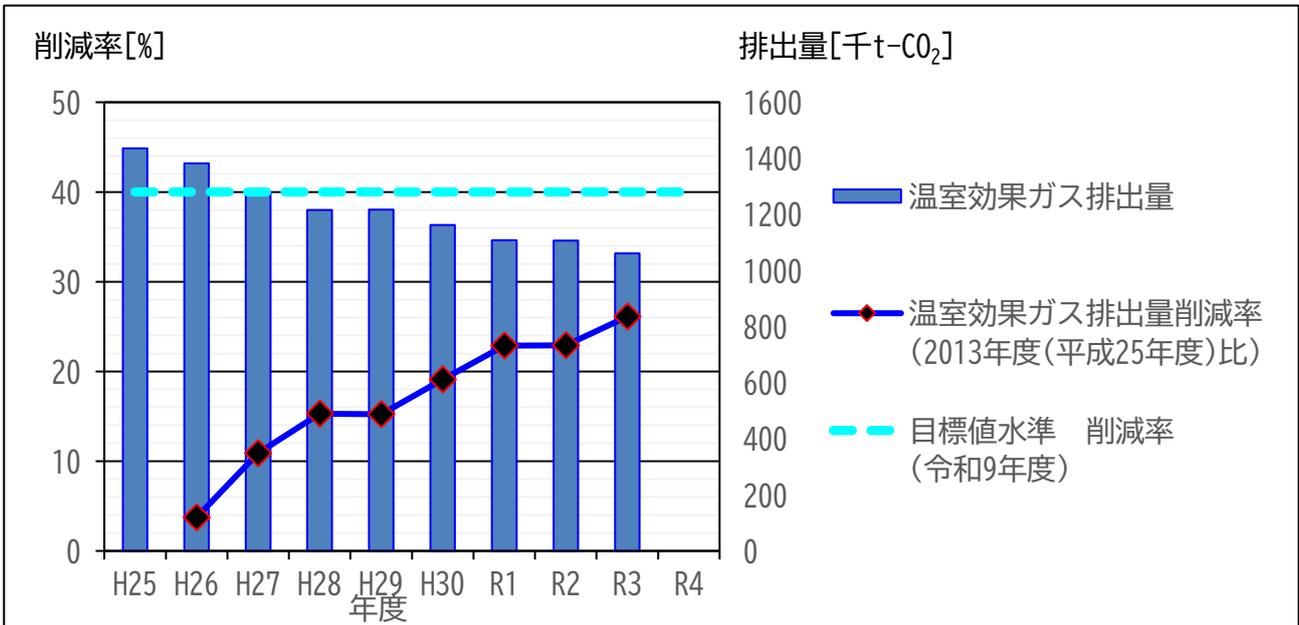
【本年度の評価】 目標は未達成だが、改善している

【評価の理由】 在宅ワークの増加を受け増加していた家庭部門の排出量が、徐々に通常の勤務体制に移行する中で落ち着いたこと、プラスチックごみや繊維ごみのリサイクルが進んだことによる廃棄物分野の排出量が減少したこと等によると考えられる

【目標の確認のための取組】 環境省「地方公共団体実行計画(区域施策編)策定・実施マニュアル(算定手法編)(令和5年3月)」に基づく推計

※ 温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

※ 目標値は令和4年4月に「大和市環境基本計画」の部分修正を行った際、19.5%から40.0%に変更しました。



《令和4年度の取組事例》

- ・ 市のホームページで、大和市環境基本計画及び大和市環境配慮指針の普及・啓発を行った。(その146環境総務課)
- ・ 熱中症予防に向け多くの手段を通じて普及・啓発を行った。(その147健康づくり推進課)
- ・ 感染症について、感染症の流行状況に合わせ、情報提供を実施したり、感染症の発生に備え、備蓄物品の見直しおよび入れ替えを実施した。(その148医療健診課)

13.「水循環」

目 標： 水との親しみのあるまち

数値目標： 雨水貯留槽購入費補助申請累計件数 650件

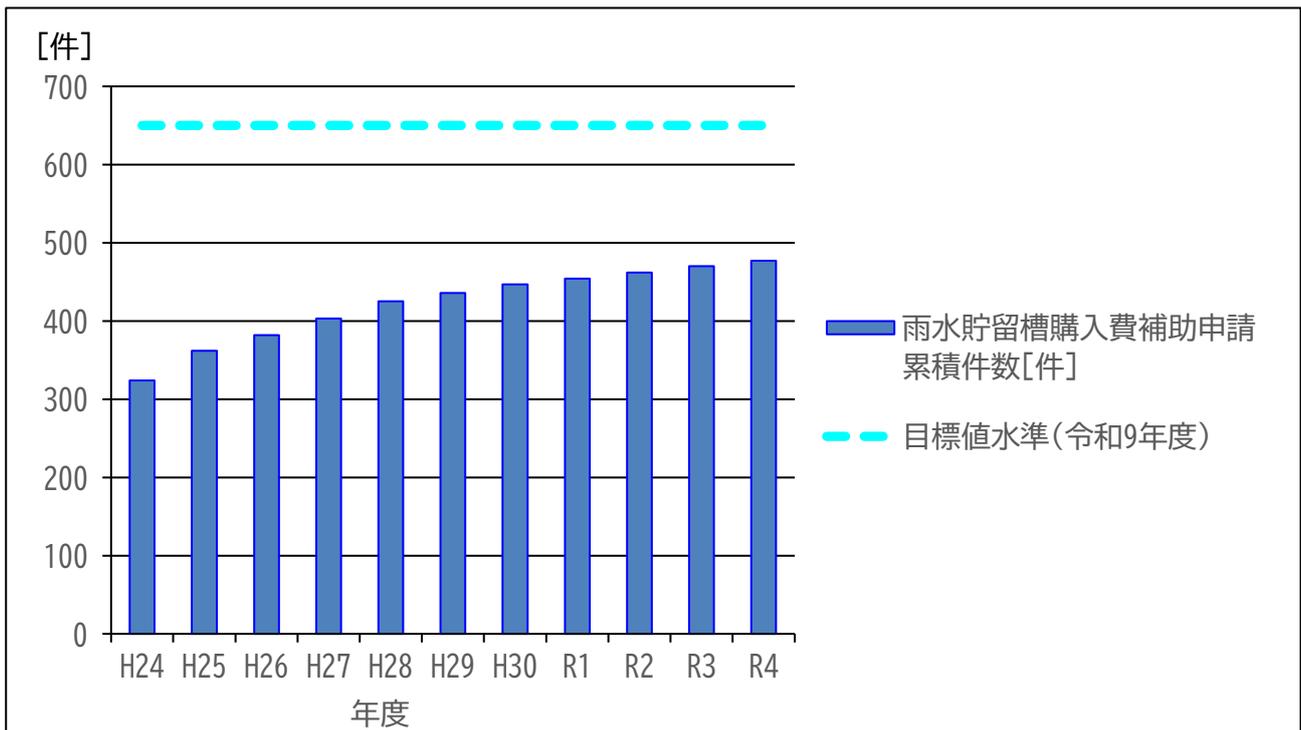
【指標の内容】	雨水の有効活用を示す指標として、「雨水貯留槽購入費申請累計件数」を表示します。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
雨水貯留槽購入費補助申請累計件数[件]	447	454	462	470	477	650

【本年度の評価】 年当たりの申請件数が目標を達成していない

【評価の理由】 令和9年度累計目標達成には年間30件程度の申請が必要となるため

【目標の確認のための取組】 雨水貯留槽購入費用補助申請件数(累計)



《令和4年度の取組事例》

- ・ 雨水貯留槽購入費補助金交付制度により、補助金を交付した。(補助件数 7件)(その152下水道・河川施設課)
- ・ 生活道路整備工事で136mの透水性舗装を実施した。(その157道路安全対策課)
- ・ 立ち入りした11事業所について、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法に基づき、地下水汚染の未然防止等について指導した。(その158生活環境保全課)

循環

14.「資源」

目 標：物質循環のなされているまち

数値目標：資源化率 32.2%以上

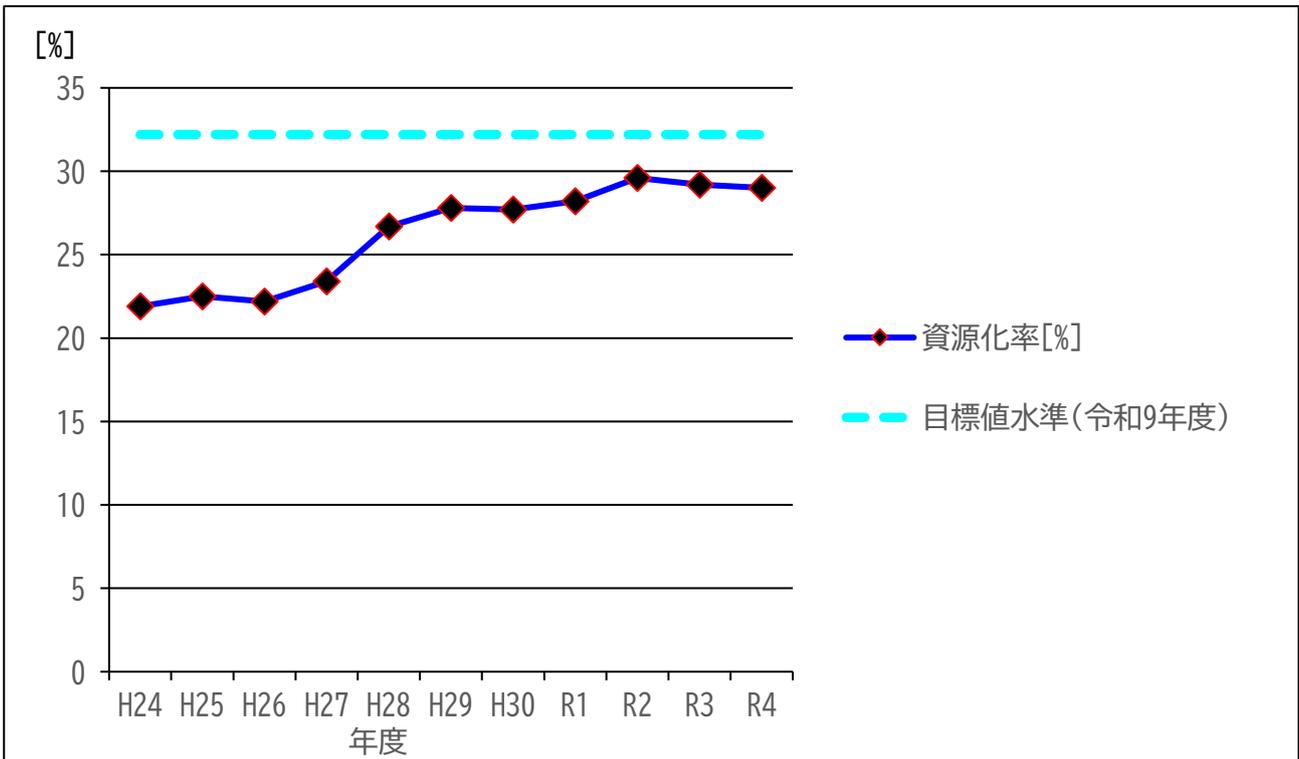
【指標の内容】	ごみ・資源を含めた総排出量に占める、資源回収からの資源化量・焼却灰からの資源化量・燃やせないごみからの資源化量を含めた、総資源化量の割合です。
---------	---

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
資源化率[%]	27.7	28.2	29.6	29.2	29.0	32.2

【本年度の評価】 目標は未達成で、昨年度と同等だった

【評価の理由】 資源については、紙製容器包装・缶・ペットボトル・容器包装プラ等の各種容器包装の軽量化等によって資源化量が減少しているが、ごみについては生ごみなど排出量が変わらないものが多いため、相対的に資源化量が減少し、資源化率も減少したため

【目標の確認のための取組】 ごみの排出量及び資源化量の集計



14.「資源」

目 標： 物質循環のなされているまち

数値目標： 市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量 438g 未満

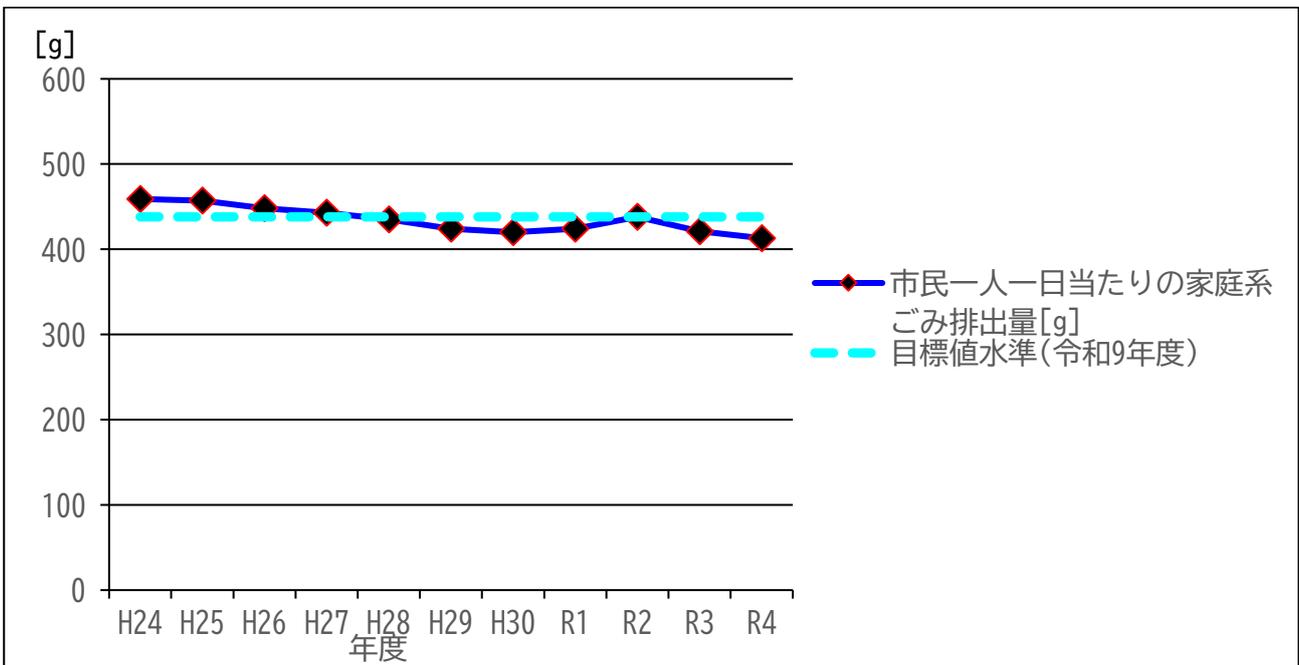
【指標の内容】 ごみ減量化のため市民一人一日当たりの家庭系ごみの排出量を表示します。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
市民一人一日あたりごみ排出量[g]	420	424	438	421	413	438

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 パンフレット・ごみカレンダーアプリ等を活用し、ごみの減量化・資源化を啓発した結果、市民のご協力を頂けて、ごみの排出量が減少したと考えられる

【目標の確認のための取組】 ごみの排出量及び資源化量の集計



《令和4年度の取組事例》

- ・ 適正なごみの排出ができるように、集合住宅等のごみの排出場所の規模・配置等を指導した。
(その162廃棄物対策課)
- ・ 大和高座ブロックや県央都市清掃行政連絡協議会などに参加し、広域処理について検討した。
(その171廃棄物対策課)
- ・ 事業系ごみの適正処理についてパトロールを行い、必要に応じて適正処理・処分方法の案内や指導を行った。
(その172廃棄物対策課)
- ・ 広報やまと、FM やまと等による市民への啓発活動を行った。(その173廃棄物対策課)
- ・ 学校給食単独調理校(8校)から排出された調理くずや食べ残しなどの生ごみを資源化した。また、生ごみ処理機の適切な維持管理を行うとともに、林間小については生ごみの堆肥化を業者に委託した。
(その176 廃棄物対策課)

15.「エネルギー」

目 標： エネルギーを有効に利用するまち

数値目標： 住宅用太陽光発電システム補助累積件数 2,500件

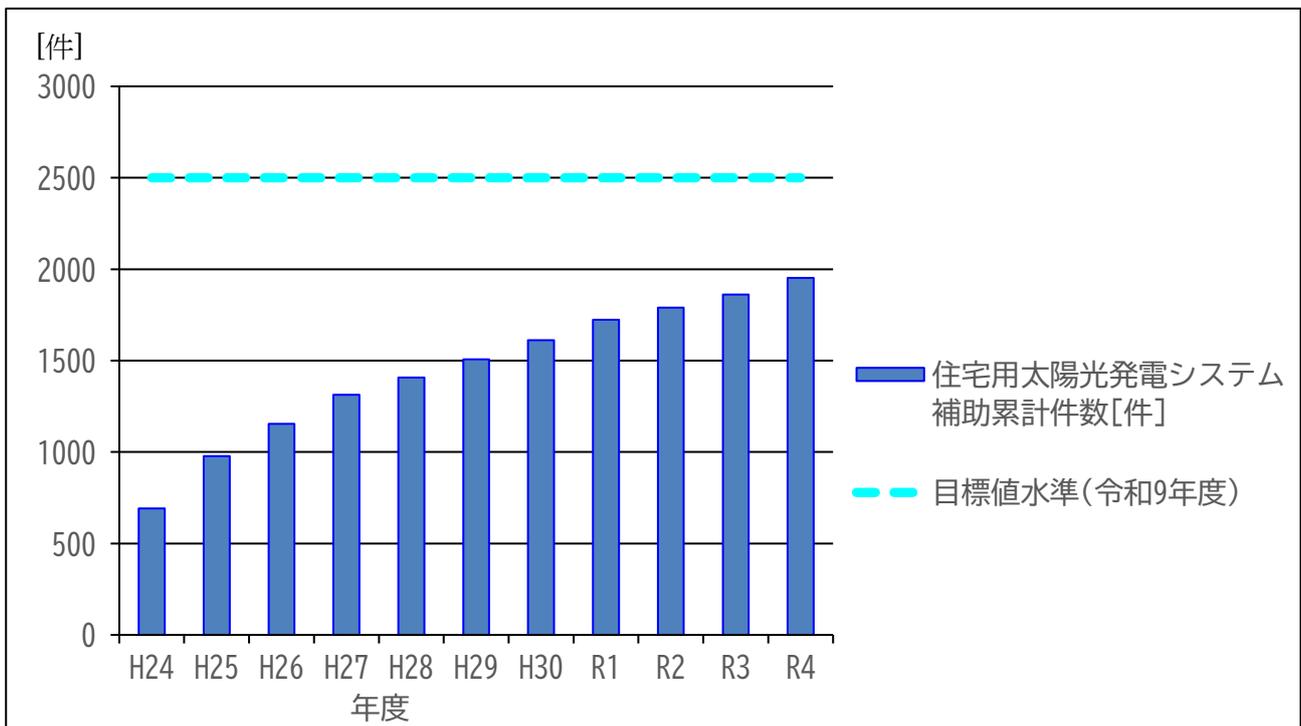
【指標の内容】	再生可能エネルギーの普及拡大を目的とし、平成21年度から開始した住宅用太陽光発電システム補助の累積件数を表示します。
---------	--

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
住宅用太陽光発電システム補助累積件数[件]	1,611	1,723	1,789	1,862	1,952	2,500

【本年度の評価】 年当たりの補助件数が目標を達成していない

【評価の理由】 令和9年度累計目標達成には年間100件程度の補助が必要となるため

【目標の確認のための取組】 住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)



《令和4年度の取組事例》

- ・ 家庭用燃料電池システムの補助制度や環境配慮指針により、省エネルギーの普及を促進した。(その188環境総務課)
- ・ 太陽光発電等の補助制度により、再生可能エネルギーの普及を促進した。(その193環境総務課)
- ・ やまと公園に太陽光発電装置を設置した。(その194公共建築課)
- ・ 焼却炉の適正かつ効率的な運転を行い、エネルギーの有効利用を図った。(その195水質管理センター)

環境保全活動

16.「環境保全活動」

目 標：環境にやさしい市民のまち

数値目標：市内全校のやまと みどりの学校プログラムへの参加

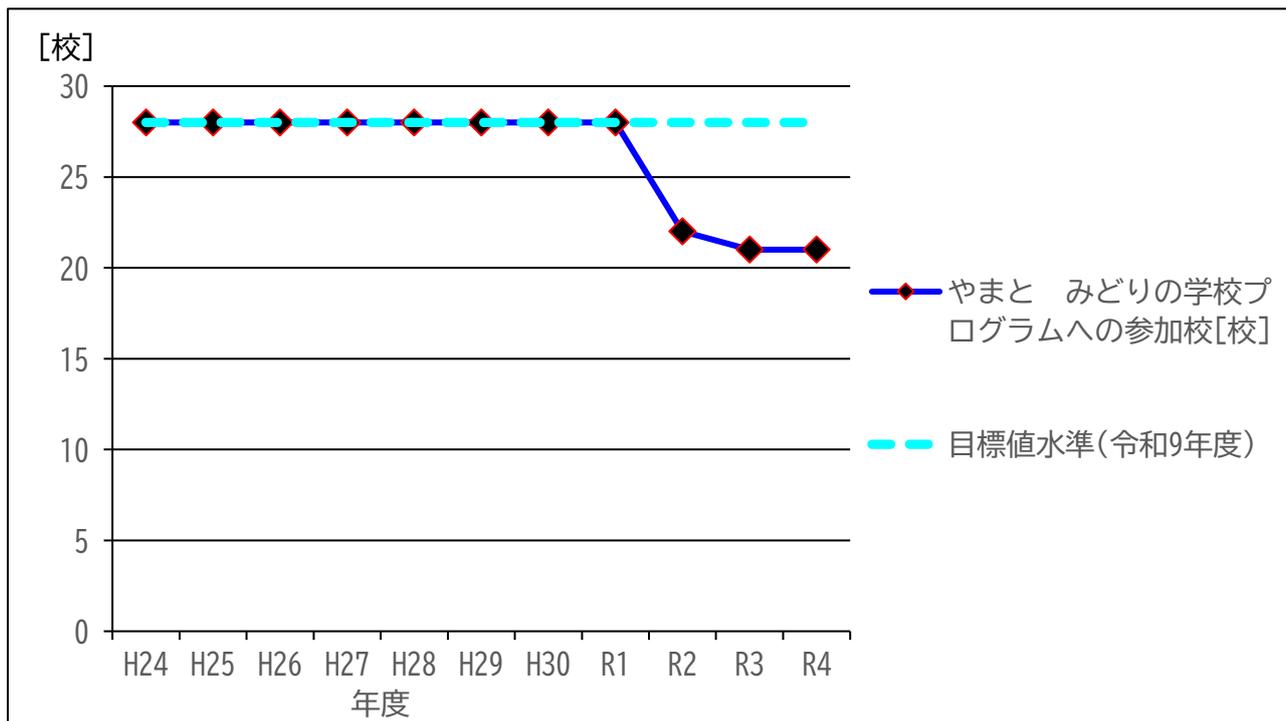
【指標の内容】 環境教育の定着を目的として市内小中学校(全28校)が「やまと みどりの学校プログラム」への参加を達成したかどうかを表示します。

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
市立小中学校全28校のやまと みどりの学校プログラムへの参加 ※(参加校数)	達成(28)	達成(28)	不達成(22)	不達成(21)	不達成(21)	達成

【本年度の評価】 目標は未達成で、昨年度と同等だった

【評価の理由】 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響によりみどりの学校プログラムへの参加を控えている学校があるため

【目標の確認のための取組】 やまと みどりの学校プログラムへのエントリーの確認



環境保全活動

16.「環境保全活動」

目 標：環境にやさしい市民のまち

数値目標：「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合 50%

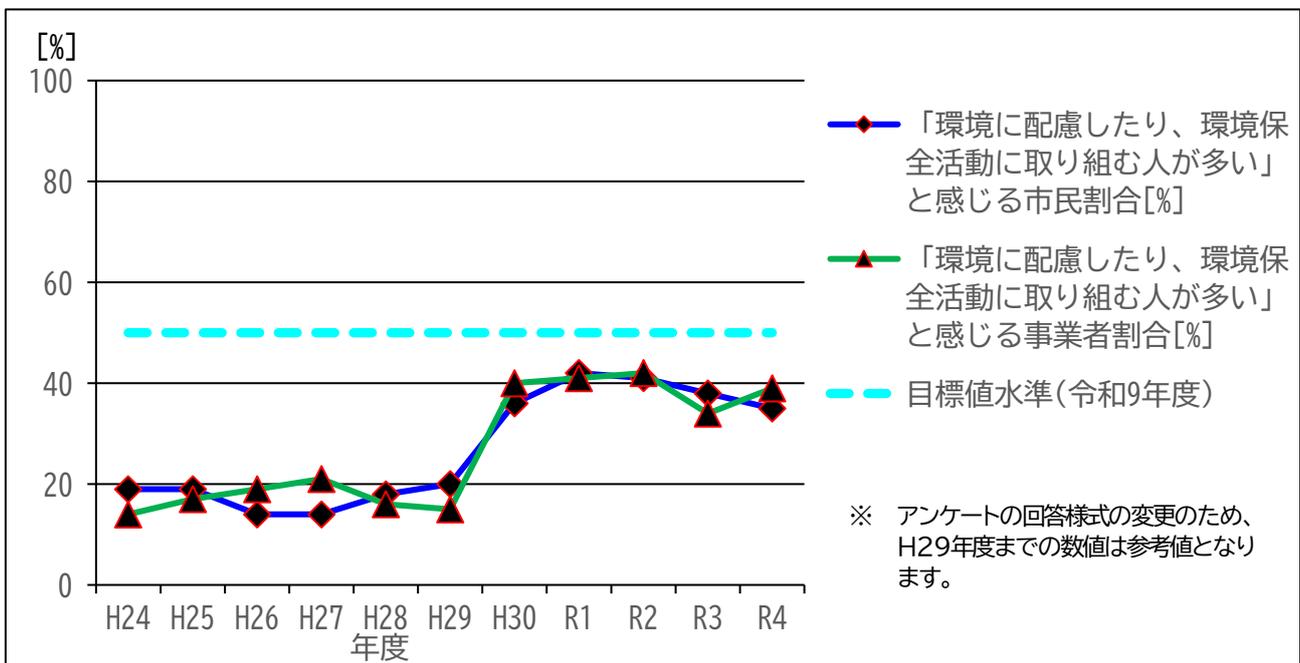
【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民・事業者の割合を表示します。
---------	--

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標値
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合[%]	36	42	41	38	35	50
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる事業者割合[%]	40	41	42	34	39	50

【本年度の評価】 目標は未達成で、事業者割合は増加したが、市民割合は下がった

【評価の理由】 令和3年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響によって活動を控えた人がいたことが考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和4年度の取組事例》

- ・ やまと みどりの学校プログラムで小学校3校に出前講座を行った。また、セミに関する講習会を開催し、34人が参加した。(その197環境総務課)
- ・ 指定管理者が学習センターで実施する講座にて、現代的課題として環境問題に関する学習機会の提供を行ったほか、成人期ではロスフラワーを用いたワークショップを行った。(その203図書・学び交流課)